

4. 地域別構想

(1) 地域別構想の位置づけ

地域別構想は、本市の都市計画区域を地域ごとに自然的、社会的条件や特性を踏まえて区分し、地域ごとに身近な視点による都市づくりの方針を示して、市民が都市づくりへの理解や関心を深めるとともに、地域の課題や都市づくりの方向を共有して、今後主体的に都市づくりにかかわってもらうための指針と位置づけます。

(2) 地域区分

地域別構想は、都市計画区域（平戸・田平）を対象とし、地形条件、日常生活圏や字、小学校区などの社会的条件を勘案して、「平戸地域」、「中野地域」、「津吉地域」、「田平地域」の4地域に区分を行いました。

地域区分図



(3) 地域懇談会

地域別構想の検討に際しては、各地域において当該地域に居住する住民の参加による地域懇談会を開催して、地域の魅力や資源、問題点や課題についてワークショップ形式により意見の把握を行いました。

	平戸地域	中野地域	津吉地域	田平地域
日時	平成 24 年 9 月 26 日(水) 19:00~20:30	平成 24 年 9 月 19 日(水) 19:00~20:30	平成 24 年 9 月 20 日(木) 19:00~20:30	平成 24 年 9 月 25 日(火) 19:00~20:30
場所	離島開発総合 センター	中野ふれあい会館	多目的研修センター	たびら活性化施設
参加 人数	22 名	5 名	12 名	11 名
備考	3 班に分かれて検討	—	津吉地区と前津吉地区に分かれて検討	田平地区と田平南部地区に分かれて検討



津吉地域 懇談会の様子



平戸地域 懇談会の様子

4-1 平戸地域

(1) 地域の概況と課題

① 地域の概況

- ・平戸島の北部に位置し、平戸大橋を経て田平地域を含む本土部分と接続しています。
- ・ほぼ全域が海岸線に迫る丘陵地となっており、限られた平地部に平戸、田助、薄香などの市街地や集落地が形成されています。
- ・丘陵地は起伏が多く、良好な景観を提供する反面、宅地利用、道路整備等の制約となっています。
- ・地域中央部の平戸湾に面した平地部分に、平戸城下旧町が形成され、本市の中心的な商店街や業務、観光施設等の機能が立地しています。
- ・城下旧町およびこれを取り囲む丘陵地に用途地域が指定されています。
- ・城下旧町およびその周辺で都市再生整備計画に基づくまちづくり総合整備事業や街なみ環境整備事業その他の事業が行われています。

平戸地域の概況と特性図



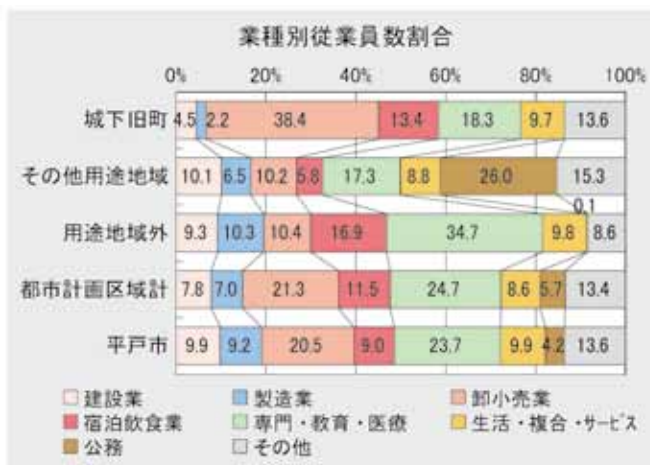
② 人口特性

- 平成 22 年人口は、城下旧町約 1,100 人、その他の用途地域約 4,000 人、用途地域外約 3,600 人で、合計 8,700 人です。
- 各区域とも減少傾向にあり、特に城下旧町はこの 10 カ年に約 210 人（15.6%）減少しました。
- 減少割合が最も少ないのはその他の用途地域の約 7%で、都市計画区域の中でも最も少なくなっています。
- 高齢人口率は、城下旧町 45.2%で突出しており、その他用途地域では 24.4%（市内で最も低い）で対照的な傾向を示しています。



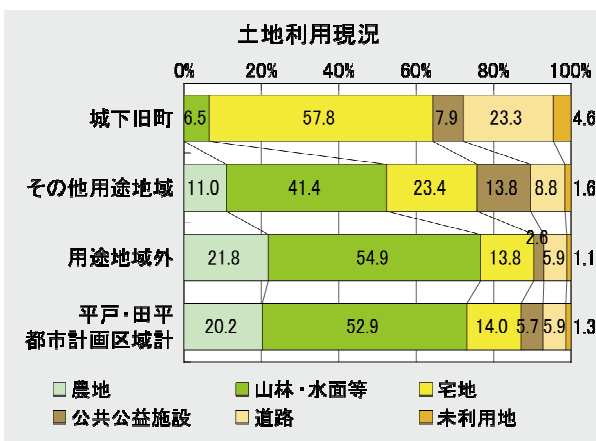
③ 就業構造・産業特性

- 就業構成は城下旧町では 90.9% が第三次産業、その他用途地域では第二次産業の割合がやや多くなっています。
- 用途地域外では第一次、第二次とも他の用途地域外と同様の傾向を示しています。
- 第二次第三次産業の事業所従業員数の構成を見ると、城下旧町では卸小売業と宿泊飲食業、その他の用途地域では公務（行政）、用途地域外では教育・福祉サービス業等にそれぞれ特徴があります。
- 城下旧町以外では卸小売業の割合が低く、城下旧町と機能分担している傾向が見られます。



④ 土地利用

- ・城下旧町では自然的土地利用が6.5%と極めて少なく、宅地が57.8%、道路が23.3%を占めるなど市街化が進んでいます。
- ・その他の用途地域では自然的土地利用が52.4%と過半に達しています。
- ・用途地域外では自然的土地利用が76.7%を占めています。
- ・平戸湾に面した城下旧町に商業施設、業務施設が集積し、これを囲む地域（用途地域）に行政施設や住宅が立地、さらにこれを取り巻く用途地域外では農地山林や集落地を主とする土地利用となっています。



⑤ 交通

- ・国道 383 号、(主)平戸田平線が地域の主たる幹線として機能し、これに(一)田ノ浦平戸港線、同薄香港線が市街地と集落地を結んでいます。このほか城下旧町では都市計画道路が市街地の基盤を形成しています。

⑥ 市街地整備・都市施設

- ・用途地域内の一部や漁業集落地区では木造密集市街地が分布しています。
- ・平戸公園、亀岡公園のほか近隣公園、街区公園が整備されています。

⑦ 地域懇談会のまとめ

- ・各種施設が立地して利便性が高く、暮らしやすい
- ・歴史や文化、自然・景観など誇れる資源が数多い
- ・台地部では土砂災害、低地部では冠水などに対する防災の必要性
- ・公共交通の確保や市街地循環線の整備
(城下旧町について)
- ・取り組んできたまちづくりを継続する
- ・駐車場や歩行空間、公園の確保、平戸らしい景観の保全整備、商店街の活性化などにより魅力の向上を図る

⑧ アンケート

全体の印象	・ 満足度、居住意向は市の平均に近い
不満度が高い項目	・ 公園、児童施設、公共交通、災害対策、道路安全対策
土地利用	(住宅地) ゆとりある住宅地、落ち着いた住宅地 (工業地) 企業誘致の推進や工業団地の活性化 (商業地) 中心商店街の活性化
道路・公園・防災	・ 歩道整備やバリアフリー化など ・ 身近な公園や家族で楽しめる大きな公園、散策路など ・ 避難場所の確保や防災マップによる周知、建物の不燃化など
まちづくり活動への参加	・ 観光活性化や伝統の保存活動
中心市街地に求められる施設・機能	・ 駐車場、商業施設(上位2項目、第4位の「歩行空間」は市の平均を5ポイント上回る27%) ・ まち歩きができる歩行空間づくり ・ 本市固有の歴史文化を活かした景観づくり

⑨ 基本的な都市づくりの課題

- ・ 城下旧町は、商業施設や観光関連施設が集積しており、名実ともに本市の拠点的な役割が期待されています。
- ・ 街なみ環境整備事業などの効果も認められますが、人口の高齢化が著しく中心市街地の活性化をだれが担うかについて課題の共有が必要です。
- ・ 城下旧町を帯状に取り囲むその他の用途地域は、多数の行政施設、公益施設が立地するほか、住宅市街地として人口の活力も認められることから、城下旧町との役割分担を明確にしながら、必要な基盤整備、生活環境整備などにより人口の定着化を図る必要があります。

- ① 市全体の活性化を牽引する地域として都市機能、都市基盤の充実
- ② 多様な世代にとって暮らしやすい生活環境の確保
- ③ 起伏に富んだ地形条件の制約を克服する道路などの都市施設の強化

(2) 都市づくりの基本方向

歴史・観光・商業・拠点機能をあわせもったにぎわいのあるまち

城下旧町は、都市再生整備計画の目標に沿ったまちづくりを推進し、城下旧町外においては多様な世代にとって暮らしやすい生活環境整備を図り、互いに支え合うことによって快適でにぎわいのある地域を目指します

(3) 地域整備方針

① 土地利用の方針

- ・城下旧町を対象に本市の中心市街地として拠点性を高める整備を進めますが、新たな開発は限られているため、街なみ環境整備事業との調和を図り、土地の有効利用、高度利用を推進します。
- ・その他の用途地域は、城下旧町との連携に配慮しながら、緑に包まれた住宅地として良好な生活環境の確保を図ります。
- ・用途地域外の集落地などについては、良好な生活環境の形成の促進を図ります。
- ・ライフカントリー周辺は、今後市街化も想定されることから、都市計画区域への編入について検討を行います。

② 交通整備の方針

- ・都市計画道路の整備がおおむね完了することを踏まえ、歩道の舗装、統一されたデザインの街路灯や案内板、休憩設備の設置など道路空間の質の向上に向けた整備を図ります。
- ・用途地域内丘陵地部へのアクセスや地区内の円滑な生活行動を支えるため、国道 383 号、(主)平戸田平線、(一)田ノ浦平戸港線、(一)薄香港線、市道川内峠線などを結ぶ路線の整備を図ります。
- ・中心市街地へのアクセス等を確保するため、公共交通（バス）の利便性向上を図ります。
- ・中心市街地にあっては、買い物客や観光客の利便性や快適さの向上に向けて、周辺景観や安全性に配慮しながら駐車場の整備、交通規制による歩行空間の確保、わかりやすい案内表示など総合的な交通対策を図ります。

③ 公園緑地整備の方針

- ・城下旧町などの観光の拠点と位置づけられた地区に休憩広場などの快適な歩行空間の確保を図ります。
- ・平戸港沿岸、2 級河川鏡川、2 級河川戸石川について防災対策に配慮しながら市街地内の快適な水辺空間としての整備を図ります。
- ・その他の用途地域や集落地にあっては、未利用地や自然的土地利用等を活用して子どもの遊び場の確保を図ります。

④ 市街地整備・防災の方針

- ・ 城下旧町については、街なみ環境整備事業の方向性に沿って個性と伝統を感じる街なみ整備を引き続き進める。
- ・ 家屋密度が高い木造市街地にあっては、街なみとの調和を図りながら、植栽や空き地の広場化など、市街地の特性にふさわしい手法により防災性能の向上を図ります。
- ・ その他の用途地域については丘陵地、傾斜地の特性を活かしつつ、円滑な生活行動や土砂災害に配慮した都市基盤（道路、憩いの広場、河川・水路等）の整備を図ります。

平戸地域整備構想図



4-2 中野地域

(1) 地域の概況と課題

① 地域の概況

- ・平戸島の中北部にあって平戸都市計画区域平戸地域の南西に位置しています。
- ・地域の南側は海岸線に迫る丘陵地および川内港周辺の平坦地を開けた川内、中野地域の農漁業集落から構成されています。
- ・地域の北側は、一部国立公園が指定された川内峠に至る、山林と農地が混在した丘陵地から構成されています。
- ・海岸沿いを経路する国道 383 号と、平戸島を縦貫する(主)平戸田平線が当地域と周辺を結ぶ幹線道路として機能しています。
- ・漁業集落では蒲鉾を生産する水産加工場が多数立地し地場産業として定着しています。
- ・新たな観光施設づくりを目指して鄭成功生家再現整備事業が行われています。



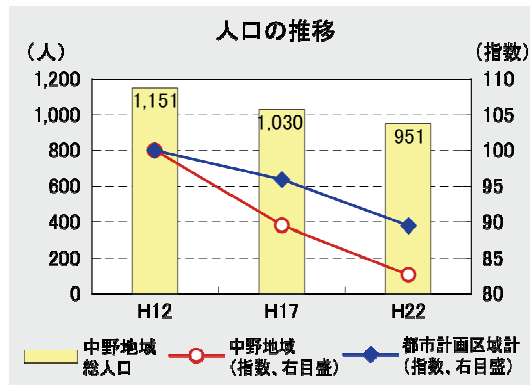
鄭成功生家再現整備事業

中野地域の概況と特性図



② 人口特性

- ・平成 22 年人口は 951 人で平成 12 年から 200 人(17.4%)減少しました。
- ・高齢化率は 33.3%で市平均とほぼ同じですが、年少人口率は市の平均をやや下回る 11.6%です。



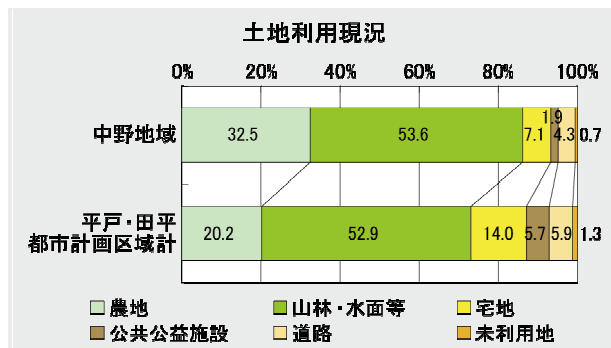
③ 就業構造・産業特性

- ・第一次産業と第二次産業の合計が 44.6%に達し、特に第二次産業が 31.0%で市の平均 19.1%を大きく上回ることが特徴です。
- ・第二次第三次産業の事業所従業員数の構成を見ると、製造業の割合が高いことが特徴で、蒲鉾生産が地場産業として定着しています。
- ・リゾートホテル立地等を反映して宿泊飲食業の割合が高くなっています。



④ 土地利用特性

- ・自然的土地利用が 86.1%を占め、宅地は 7.1%で都市計画区域の平均よりも農地山林等の割合が高くなっています。
- ・宅地は川内港を囲む平地部に集落地が形成され、集落地では地場産業の水産加工場が多数立地しています。



⑤ 交通

- ・国道 383 号と(主)平戸田平線が地域の幹線として機能していますが、カーブが多いことや災害時の冠水の恐れがあります。

⑥ 市街地整備・都市施設

- ・集落地では道路や公園などの基盤の未整備、家屋の密集など生活環境が不十分です。
- ・丸山公園のほか、鄭成功関連施設や千里ヶ浜などが整備されています。

⑦ 地域懇談会のまとめ

- ・地域のつながりは維持され自主防災など組織されてきたが、漁師や若者の減少、空き家の増加など活力が低下してきた
- ・地場産業の蒲鉾製造業は元気があって後継者もいる
- ・鄭成功ゆかりの施設や良好な自然環境を活かした活性化対策が必要である
- ・幹線を含む道路幅員の拡幅や大雨時の冠水対策が必要である

⑧ アンケート

全体の印象	・市全体に比べ満足度が高く居住意向も高い
不満度が高い項目	・公共交通、災害対策、道路安全対策、医療、福祉施設
土地利用	(住宅地) 安全でゆとりある住宅地、敷地に余裕のある住宅地 (工業地) 周辺と調和した工業地 (商業地) 身近に利用できる商業地 (農地山林) 農地や山林の保全
道路・公園・防災	・各地域を結ぶ幹線道路 ・身近に利用できる公園、住民参加による維持管理 ・避難場所の確保、砂防、急傾斜地、河川、海岸の整備
まちづくり活動への参加	・高齢者支援、清掃や美化活動、特産品によるまちおこし

⑨ 基本的な都市づくりの課題

- ・これまで維持されてきた地域社会は、水産加工業の安定とあいまって地域の暮らしやすさにつながっています。
- ・人口の減少や高齢化が進行しているため、若者を含む多様な世代が安心して住める生活環境の整備が必要です。
- ・鄭成功関連施設や千里ヶ浜といった固有の資源を活用した整備が地域づくりの新たな息吹となることが期待されます。

- ① 鄭成功関連施設整備や地場産業の振興による地域活性化
- ② 生活環境の安全性の確保と暮らしやすさの向上
- ③ 災害時などにも通常と同様の通行が可能な他地域間との連絡網の確保

(2) 都市づくりの基本方向

歴史と地場産業が支える暮らしやすいまち

鄭成功関連施設整備をきっかけとした新たな観光レクリエーションゾーンの形成を図り、活気ある水産加工場と一体となった活力に満ちた地域を目指します

(3) 地域整備方針

① 土地利用の方針

- ・安定した地域社会を支える生活環境づくりを行うため、道路改良や子どもの遊び場の確保などを通して集落環境の整備を図ります。
- ・水産加工場は従来から特色ある集落環境の一部を構成しており、今後も公害の防止に努めながら調和した集落環境づくりを図ります。
- ・農地や山林については 9 割近くを占めており、地域の資源としてその保全を図りながら、観光レクリエーションの場の提供について検討を行います。

② 交通整備の方針

- ・他地域との円滑な連絡のため、国道 383 号、(主)平戸田平線のカーブの改良や部分的な拡幅などの整備を図ります。
- ・国道 383 号と(主)平戸田平線を結ぶ市道川内下中野線について円滑な交通と安全性を高める整備を図ります。
- ・通院や通学をはじめとする市民生活を支えるため、公共交通（バス）の利便性向上を図ります。

③ 公園緑地整備の方針

- ・千里ヶ浜、丸山公園、鄭成功関連施設等を結んだ観光レクリエーションゾーンの整備を図ります。
- ・未利用地や自然的土地利用等を活用して子どもの遊び場の確保を図ります。

④ 市街地整備・防災の方針

- ・川内地区の水産加工場と住宅が一体となった街なみの雰囲気を保ちながら、家屋の建て替え時期にあわせた延焼防止策などの集落地の安全性の確保により、暮らしやすさの向上を図ります。
- ・風水害、高潮、地すべりなどの災害に対して防災対策を行うとともに、避難場所や避難路等について地域住民とともにハザードマップの作成などを通してソフト面からの安全性の向上を図ります。

中野地域整備構想図



川内峠に咲くヒラドツツジ